

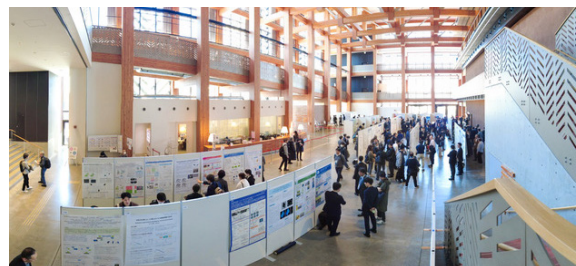
### 2025年度量子ビームサイエンスフェスタ 第17回 MLF シンポジウム／第43回 PF シンポジウム開催報告

量子ビームサイエンスフェスタ 実行委員長 梅垣いづみ  
実行副委員長 大東琢治

2026年3月11, 12, 13日に KEK 物質構造科学研究所, J-PARC センター, 総合科学研究機構 (CROSS), PF ユーザーアソシエーション (PF-UA), J-PARC MLF 利用者懇談会が主催の量子ビームサイエンスフェスタを開催しました。今回も前年を踏襲し対面開催を大切に、607名(うち学生は116名)の方に参加登録頂きました。毎年、開催地をつくばと水戸を交互に変えており、今回は水戸にある水戸市民会館で開催いたしました。開催期間中には PF-UA ユーザーグループミーティングと、期間中と会期の翌日にサテライト研究会も開催されました。

初日の3月11日には PF シンポジウムが行われ、午前中は PF 施設報告でした。施設報告の後、光源、PF リングの実効エミッタンス低減化について報告がありました。運用を開始した直後の新ビームライン BL-11 の報告に続き、S2 型、T 型、PF-S 型課題の課題責任者によるプレゼンが行われました。午後は、PF-UA 総会と学生論文賞受賞者の講演がありました。次期光源計画では、量子マルチビーム施設計画とその施設に必要な加速器技術および、そこで展開するサイエンスについての講演がありました。総合討論では、次期計画や運営への要望など活発な議論がなされました。引き続き、SPF 施設報告が行われました。

2日目の3月12日の量子ビームサイエンスフェスタでは、開会宣言・挨拶の後、一杉太郎氏(東京大学)から「異分野融合のハブとしての量子ビーム施設：協働と共用の推進」、山谷泰賀氏(量子科学技術研究開発機構)から「量子科学・量子ビームが切りひらく次世代の医療」と題した基調講演に続いて、来賓・主催者代表による挨拶が行われ、量子ビームサイエンスフェスタの開催に多大な激励をいただきました。午後の前半はユーザー及び施設による271件のポスター発表が行われ、そのうち学生奨励賞への応募は63件でした。後半は3会場で平行での口頭発表が



ポスター会場(やぐら広場)の様子(3月12日)

行われ、「無機材料」「有機材料」「磁性・強相関」「生命科学」「イメージング」「基礎物理」の6つのセッションで18件の講演をお願いしました。

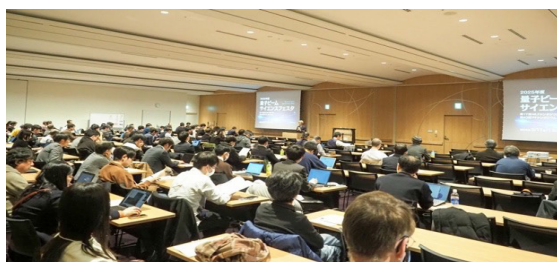
3日目の3月13日には、MLF シンポジウムが行われ、午前は MLF 現状報告に引き続き、施設報告を、最近の進展と今後も含めて講演がありました。午後には、MLF 利用者懇談会の総会と要望・アンケート報告があり、後半は MLF のサイエンスに注目した成果について講演がありました。会期の翌日はサテライト会議として第2回 MLF ロードマップワークショップが開催され、ターゲットステーション2(TS2)での研究展望に加え、TS1の高度化、施設設備への要望など討議しました。

2015年度から始まり、11回目を迎えた量子ビームサイエンスフェスタは、施設スタッフとユーザーの情報交換の場であるだけでなく、異なるプローブを用いる、あるいは異なる分野の研究者間の交流を通じて新たな研究の発展に繋がる場です。皆が一堂に会し、口頭発表やポスター発表で活発な議論が行われ、特に学生奨励賞のポスターセッションはとても盛況なものとなり、研究者間の交流を深めることができました。今回の量子ビームサイエンスフェスタが新たな研究に繋がるきっかけとなれば幸いです。お忙しい中、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

量子ビームサイエンスフェスタ2025の会の様子は物質構造科学研究所のホームページ(\*1)や KEK トピックス(\*2)もぜひご覧ください。

\*1) <https://www2.kek.jp/imss/news/2026/topics/0311-13qbsf2025/>

\*2) <https://www.kek.jp/ja/topics/202604031700>



PF シンポジウム会場の様子(3月11日)



集合写真(3月12日)